

5月16日（土）慶成会では地域貢献事業の一環として、初の試みとなる「ミニマルシェ in 慶成会」を開催しました。当日は天候にも恵まれ、会場のケアレジデンス東山西側駐車場には近隣の子もたちや保護者の皆様など、約150名の方にご来場いただきました。

会場には、メロンパン・ポテト・スイーツ・コーヒーを販売する4台のキッチンカーが出店し、休憩スペースでは子どもたちが楽しそうに飲食する姿が見られました。また物販コーナーでは、地元農家で採れた新鮮な野菜や果物、色とりどりの花が並び、大きな袋を抱えて買い物を楽しむ方も多くいらっしゃいました。



子どもを対象とした催しでは、「ねりきり和菓子」「アイシングクッキー作り」の2つのワークショップが大盛況。事前に参加予約をした子どもたちが、思い思いの作品づくりに夢中になっていました。他に、ヤギとのふれあい体験や施設内4箇所を巡るスタンプラリー、グリーンヒルズ東山地域交流室での射的・的当て・ディスグッターなど会場全体が活気にあふれ、子どもたちが笑顔で過ごす様子が印象的でした。



半年間の準備を経て開催した今回のミニマルシェは、子どもも大人も楽しんでいたイベントとなり、関係職員一同大変嬉しく思っております。慶成会では、今後も地域の皆様に喜んでいただける企画を実施してまいります。来場者いただいた皆様、誠にありがとうございました。



松本泉美さん（やわらぎ） 伊豆文学賞を受賞！

ヘルパーステーションやわらぎ介護職員の松本泉美さんが、第29回伊豆文学賞の小説部門で佳作を受賞されました。

伊豆文学賞は、川端康成や井上靖に続く新たな文学作品や人材を発掘することを目的に、30年前から毎年開催されている大変栄誉ある賞です。静岡県内の自然や地名、歴史などを題材にした小説や随筆を募集しており、優れた作品には優秀賞が贈られます。受賞作「ナンキンハゼ」は、浜松環状線沿いに植えられた街路樹に由来しています。白い実がよく目立ち、地域の名物にもなっています。

ご本人は学生時代から趣味で小説を書いており、知人が参加する読書会へ参加した際に掛川の同人誌を紹介され、自作を発表するようになりました。創作中は“嫌な人物は登場させない”“どんな内容でも最後はハッピーエンドで終える”ことにしており、松本さんの優しさが伝わってきます。

介護という仕事柄、作品にヘルパーの視点を取り入れることが増え、創作の幅も広がりました。



松本さんにとって小説を書くことは、空想を巡らせながら想像力を働かせる、まさに呼吸と同じ自然な行為だそうです。生み出したキャラクターを作品へ残せることが喜びであり、創作意欲を高めライフワークとしての原動力にもなっています。ご本人は、将来伊豆文学賞で最優秀賞を受賞したいという大きな目標があります。今後の作品の完成も、心より楽しみにしています。



一般書店で
購入可能です

ビジネスマナー基本講座

5月19日（火）14時より地域交流室において、浜松いわた信用金庫の玉澤倫子様を講師にお呼びし、「ビジネスマナー」基本講座を開催しました。

当日は14名の職員が参加され、1時間にわたり接遇マナーの必要性、言葉遣い、身だしなみなど社会人として身につけておくべき基本のお話をいただきました。冒頭“お金”のクイズもあり、知っているようで知らない雑学を楽しく聞くことができました。

講座の後半では、おじぎの角度や職位による座席・EV内の立ち位置というような実践的な対応方法についても確認することができました。

心に余裕がないと、相手に対しつい横柄な態度になったり失礼な発言をしてしまうこともあるかもしれません。しかし、初対面の方に対して第一印象の影響はとて大きく、その後の人物像や所属する企業へ良くないイメージを抱かれてしまうため、常に立ち振る舞いには注意が必要です。

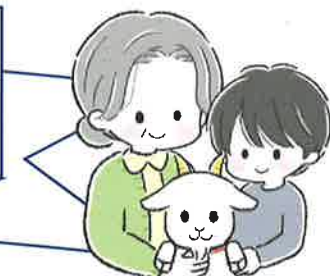
改めて、接遇マナーの大切さを再認識する機会となりました。



S-mile 通信

令和8年6月15日発行 第100号

発行／理事長室 浜松市中央区大山町2958番地の1



過去を振り返って
～社内報の輪

ご挨拶

一昨年に法人30周年を迎え、この度社内報『S-mile 通信』100号を記念すべき発行となりました。各事業所がそれぞれに活動する中、法人全体の様子を全職員と共有していきたい、強い繋がりを持った法人になりたい、その思いで社内報を発行しております。

また、「S-mile」のSには「素敵な職員」「素敵な職場」の頭文字“S”に思いを込めております。

現在、全職員、及び日頃お世話になっている方にこの社内報をお渡ししていますが、今後は法人理念の浸透に役立つ企画を積極的に取り入れ、慶成会マインドをより確かに深め、育てていくツールとして発行し続け、より良い会報誌としていきたいと思っております。



社会福祉法人慶成会 理事長 小澤 優

木村香織さん 勤続 25 年インタビュー

R8 年度表彰式を 5 月 11 日（月）開催し、2 名の職員が
永年勤続 25 年表彰を受けました。表彰者のお一人である、

ヴィラ東山苑副施設長の木村香織さんにインタビューを行いました。



— 勤続 25 周年おめでとうございます。今の気持ちをお聞かせください。

木村さん：多くの仲間を支えられ、今の自分があるということが正直な感想です。

— 25 年という長い間、仕事を継続できた理由は？

木村さん：日頃から職員同士の関係が良好で、互いに支え合える雰囲気が 1 つの原動力となっています。

— 一心に残るエピソードはありますか？

木村さん：20 年以上前にヴィラ東山苑へ入居された方のご家族が、再び当施設を選んでくださることがあります。こうした長いご縁に触れると、時の流れを感じると同時にとても嬉しくなります。

日頃の対応を信頼していただけているのだと感じ、励みになります。

— 25 年間で法人、またご自身が変化したことはありますか？

木村さん：周りの環境は大きく変わりました（笑）。道路が整備され、施設も増築され賑やかになりました。25 年前の私は一人では何もできず、先輩達から指示を受けることが殆どでした。今は立場上職員を指導することもあり、常に自分自身で学び成長する必要があることを実感しています。

— 仕事は充実していますか？

木村さん：判断する機会は増えましたが、それだけ周囲から求められているのだと思います。毎日楽しく仕事を行えるよう、常にオンとオフの切り替えは意識しています。仕事も遊びも一生懸命です。

— これから挑戦したいことがあれば教えて下さい。

木村さん：現在、ご入居者の年齢は 60 歳代から最高齢 103 歳の方と年齢幅が大きくなっています。これからは、世代を超えて楽しんでいただける企画を考え、進めていけるよう頑張ります。

【同僚より一言】木村さんのすごい所は、人間としての器が大きいことです。いつも部下の悩みや困ったことを素直に受け止めてくれ、安心して仕事ができます。尊敬する上司であり、いつも応援しています。



介護福祉士合格おめでとうございます！

慶成会では、外国人職員の方が多数活躍されています。
この程、グリーンヒルズ東山野の香のグエンティフォンさんが、特定技能で入職された方として初めて介護福祉士国家試験に合格しました。

フォンさんは R4 年に慶成会へ入職し、翌年に慶成会で開催の介護職員初任者研修を受講されました。その後、日本語を学びながら R6 年に介護福祉士実務者研修にも参加され修了しています。2 年間猛勉強の末、R7 年度の国家試験にチャレンジし、合格することができました。

— 合格おめでとうございます。

フォンさん：ありがとうございます。

— 合格までの道のりはいかがでしたか？ また、いつ勉強していたのですか？

フォンさん：働きながらの勉強はとても大変でした。やはりお休みの日に勉強していましたが、夜勤の時など記録を書きながら介護用語を覚えていくことも多かったです。上司や先輩たちから用語の説明について色々教えてもらうことができ、たくさんの応援をいただきました。とても感謝しています。

— 合格が分かった時のお気持ちは？

フォンさん：自分の番号を見つけた時にはとても嬉しく、思わず涙が出てしまいました。

— これからの目標をお聞かせください

フォンさん：今後も引き続き、日本語の学習を続けていきたいと思っています。

これから受験する後輩たちにも合格してほしいので、参考になることがあれば是非協力していきたいと思っています。



グリーンヒルズ東山 ボランティアお二人へのインタビュー

Q. ボランティアを始めたきっかけは？

ヴィラ東山苑の苑長から声をかけていただき、間もなく 1 年が経ちます。苑長とは親しく、近所で通いやすいからと喜んで引き受けました。

小澤雅子さん
“洗濯”
ボランティア



Q. お手伝いの内容を教えてください。

グリーンヒルズ東山の 1 階の作業で、多くの洗濯物を洗い乾燥機をかけて、洋服や下着、タオルを畳んでいます。

Q. ボランティアをしていて、ご自身が感じていることはありますか？

実は、ボランティアを始めてすぐ足に怪我をしてしまい、2 ヶ月程安静にしていたら体力が落ちてしまいました。幸いボランティアには復帰できましたが、改めて体を動かすことの大切さを実感しました。現在は週 2 回、朝 1 時間の仕事が自分自身の励みになっており、体力の維持にも繋がっています。

Q. 何かエピソードがあればお聞かせください。

始めて間もなく、旧来の知人が入所していることを知りました。それからは、私が来る日を心待ちにしてくれ、一緒に洗濯物を畳みながら昔話に花が咲くこともあります。また、職員の皆さんから「手伝ってくれて助かるよ」と声をかけていただくこともあり、とても励みになっています。



Q. 職員の皆さんは、ケアの対応などその時にやらなければならない業務が多いため、小澤さんのお手伝いにとっても感謝しているのではないかと思います。最後に、これからの目標を聞かせてください。

それなりに年を重ねてきましたが、幸い病気もせず元気に過ごせています。自分を頼ってくれる人がいることは大変嬉しいです。体が動く間は、出来るだけ他者のために役立ちたいと思います。



Q. 吉村さんは以前、グリーンヒルズ東山の看護師としてお仕事をされていましたね。

2024 年度末で退職し 2 ヶ月が経ち、ボランティアという形で復帰しました。各ユニットで食事介助のお手伝いをさせてもらい 1 年半が経ちます。

Q. ボランティアを始めた理由は何だったのでしょうか？

退職が近づき、お世話になった元上司がボランティアで活躍する姿を見て、自分も将来は自然な形で第一線を退きたいと考えていました。ボランティアという無理のない形で社会に関わり続けられることが、自分の理想でした。

Q. ボランティア活動の中で、気づいたことがありましたら教えてください。

職員として働いていた頃より介助に集中でき、時間的・精神的な余裕が生まれました。そのため、よりご入居者やご家族の視点に立ち、考えることができるようになりました。一方で嬉しいこともあり、退職後も私の名前を覚えてくれていたご入居者が見えたことや、職員からサンクスカードをいただいたことです。

Q. 現場職員の皆さんにとって、近日まで介護現場を経験していた吉村さんの存在は、とても頼もしく、安心感につながっているのだと思います。今後、挑戦したいことがありましたら教えてください。

まずはボランティアを継続しながら、家事や庭の手入れなど、好きなことをして過ごしていきたいと思っています。時間に余裕ができれば、全国を旅行できたらいいなと思っています。



吉村久子さん
“食事介助”
ボランティア

